

# face to face

「+」発信で信頼の構築を！

2019.04.17

No.67

校長 渡邊 幸二

先日9日のPTA全校評議員会の席上、私は保護者と教師が同じ方向を向いて、子どもを中心に据えて育てていきたいと思いますと訴えました。そして、学校からお子さま方の情報を積極的に発信していくとコミットしました。そして、「もし、これまでと変わってない！」と感じた方は学校にご連絡ください。指導します。」とも言いました。

これは、「通知表2学期制に伴って面談が1回に減るので、その分保護者の方へ子どもに関する情報、できれば『+』の情報を積極的に発信して減った分を補うと共に、それを信頼構築に向け有効活用しましょう」と先生方にお伝えしていたことを、保護者にも伝えたということです。しかも、できるだけ **face to face** でお願ひしますとも言いました。電話でもいいですが、ちょっとおうちの方の顔を見ながら「うれしいお知らせ」を運んでいく…そんな作戦です。

これまでやっていなかったことをやることには抵抗もあるし、面倒くさいと思われる方もいるでしょう。しかし、ここではわれわれの使命とは何だったのかをもう一度考えてほしいのです。一人前の人間に成長させていくことが最重要目的であって、楽をして子どもを育てる方法を考える集団であってはいけないと思うのです。

子どもの成長のためなら全力を尽くす！

浜田小学校の職員は、そうであってほしいと思います。

## 逆は、徹底的に力を抜く

子どもやその保護者に対しては全力で指導したりサポートしていく。しかし、それ以外のことについては徹底的に力を入れないで行くことが、本気で物事を推進するときの基本だと思います。そんなに時間やゆとりはないのです。ですから、学校文集もやめたし、教科主任も置きませんでした。

20日のPTA総会では、保護者のみなさまにも、学校の働き方改革のことや、先生方のがんばりを伝えると共に、先生方にPTAの仕事をさせないで、保護者自身でも進めていくようお願いしていきます。今時、教師に仕事をさせなければうまく回らない活動があるとしたら、それこそ止めていいのだと思います。学校も保護者も子どもの成長のために選択と集中を進める…そんな関係でありたいと思います。

ですから、担任の先生はもちろん、それ以外の教職員でも、子どもたちのことに関してはできる限り **face to face** で向き合っていきます。

